

VERITAS vos liberabit



鹿兒島純心女子
大学附属図書館報
第7号(No.7)
編集:図書館運営委員会
発行日:2018.3.14

特集 追憶へのエントランス

■巻頭言

副学長 影浦 攻

図書館報名「VERITAS vos liberabit」は、ラテン語で「真理はあなたたちを自由にする」(新約聖書ヨハネ福音書8章32節)という意味です。

contents

巻頭言

副学長 影浦 攻 1

Book Review

2
福田 みのり
Andrew DANIELS
花井 節子

(こと文4)坂元 秀吏
(看護 1)黒木 文華
(こども3)岩木 円花
(健栄 2)南 有梨沙

USER'S voice

6
(大学院)有島 麻由子

49年後のconfession

岩田 真一

Forum

7
古本募金
純心アートギャラリー

お知らせ

8
編集後記

心のもやもやを表した表現に出会う

本を読むときに、話の流れとあわせて、遠い昔の忘れかけた記憶や感覚をよみがえらせるような記述や、私の心のありようにぴったり合う台詞や、心のもやもやを表した表現に出会うとき、「そうだ」と思い、その表現とそれが醸し出す風景をメモすることがある。まさに、このことが、私にとっての本を読む楽しみでもある。

『つばき文具店』(小川 糸, 幻冬舎 2016)を読んだ。私は文房具に興味とこだわりを持っており、万年筆、原稿用紙、ブルーブラックのインク、アシュフォードの手帳、蝋を使ったシーリングスタンプなどを30年以上も愛用している。

この本に、主人公は代書屋らしく紙や筆記具や手紙の作法などの話が随所に出てきて、私のモンブランの図太い万年筆「マイスターシュテック149」や「満寿屋」の原稿用紙や、シーリングスタンプの記述があり、とてもうれしくなり、その表現に付箋を貼った。

『愛のかたち』(岸 恵子 2017)に、人が恋に落ちるきっかけは何か、とぼんやり考えていたときに、はっとする台詞になるほどそうかと思ひ当たった。

ユーモアの欠片もない、相手に対する思いやりもない、狭苦しい料簡しか持たないように思える男と、コケティッシュで、はで好きで、明るい性格の女性がなぜ結婚したのか、怪訝に思っていたときに、女性が冗談めかして、「人間ってさ、どんなに平凡に見える人でも、人生のあるとき、なぜかいつとき、またはある期間だけ、持てる長所が勢ぞろいして、いきいきとした煌めきを放つ期間があるんじゃないのかな。もともと知性や

教養は充分ある人だし、不幸にしてわたしは煌めいている時の彼と出会ってしまったのよ。」

『世代の限界』(穂村 弘)『ベスト エッセイ』(文芸春秋社 2017)。コンビニで雑誌の表紙の美しい女性を佐々木希だと教えてもらい、別の雑誌の表紙を見て、この人は誰と尋ねたら、その人も佐々木希だと聞いて、化粧や髪形や表情や角度が少し変わると、別人に見えてしまう話に、時代についていけない作者と私をつい重ねてしまう。

授業で私がタイプライターやワープロと口にしたら、「ワープロって何ですか」と訊かれ、そうか、平成生まれの人には、これらの語句は未知なのかと思う。逆に、学生が日常的に利用しているSNSとか、新しいアプリのインストールとかが私には未知の世界である。

賞味期限も消費期限も過ぎた私には、「世代の限界」を身に染みて感じた話である。

『不寛容社会』(谷本真由美 ワニブックス 2017)を、マスコミが話題の人を徹底して打ちのめす不寛容な社会に、しっくりこない私にとって、共感を持って読んだ本である。

著者が「おわりに」で、日本人が「他人叩き」をやめ、生きやすい社会になるために必要なこととして、「人と自分は違う」「異なるものに寛容であれ」「大雑把になれ」「高望みしないで自然の摂理に従え」と述べているのを、私の生きるヒントとしてメモに残した。



Book Review



おすすめの本を紹介していただきました



『認知心理学者
教育を語る』
若き認知心理学者の会著
北大路書房

図書館所在
1F和書 371.4 WA

皆さんは学校が好きでしたか？好きだった人、嫌いだった人、それぞれ理由は様々でしょうが一人ひとりにとって学校にまつわる思い出とともに、教育について何がしかの考え方を持っているものと思われ

ます。この本は、タイトルの通り心理学者が教育について語ったものです。心理学では「学習」は学校における教科学習のみを意味せず、様々な知識、技術、社会的能力の獲得を含むものを指します。このようないわば社会生活を送る上で必要な力を「学習」するために、体系的・組織的に「教育」される場が学校などのいわゆる公的な教育機関です。つまり、児童・生徒の「学習」を促すために「教育」があり、これら2つの概念は切っても切り離せない関係といえます。そして、この「学習」の過程を研究対象の一つとする認知心理学者たちが、「学習」の

プロセスを踏まえた上で「教育」に有用な提言を行っているのが本書です。大きく、第一部「知識の獲得を援助する」、第二部「思考力を育てるために」、第三部「理解力と表現力を育てるために」、第四部「学習意欲を高めるために」、第五部「他者との関わりの中で自己を確立する」となっており、認知心理学の研究成果をもとに教育をめぐる様々なトピックについて各著書が論じています。

中でも「声援なき教育のすすめ—努力至上主義を問い直す—」では、私たち日本人が努力に価値をおき、美德として重んじる、いわば努力至上主義社会に属していながら、無気力で努力を怠っているように見える人、努力をしているのにそれを隠そうとする人が育ってしまうのはなぜかについて説明し、単純に「がんばれ」と声援するだけではなく、努力したくなる環境を整えることを提言しています。

心理学の予備知識がない人でも読むことができ、教員を目指す人はもちろんのこと、目指していない人も自分がこれまで受けてきた教育について再考する良い機会となるでしょう。トピックに分かれているので、どこからでも興味のあるところから(あるところだけでも)読んでみてはいかがでしょうか。

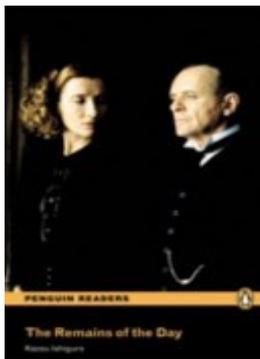
こども学科 福田 みのり

選書ツアーへ参加しませんか

図書館の蔵書を主に利用される学生さんに、書店で直に図書を選んでいただくと思い、選書ツアーを企画しました。図書館での初の試みで、どのような図書が選ばれるのかドキドキ、ワクワクしました。選書ツアーで選ばれた図書は、学生の皆さんに好評でとてもよく読まれています。

来年度も引き続き実施しますので、ぜひご参加下さい。





The remains of the day

by Kazuo Ishiguro
Pearson Education

図書館所在
2F洋書 933.7 |

日本語訳
『日の名残り』

Kazuo Ishiguro recently won the Nobel Prize for Literature to much acclaim especially in the country of his birth (He was born in Nagasaki in 1954) and also in Britain where he has lived since the age of 5. One of Ishiguro's books that I have enjoyed reading and re-reading is his 1989 'The Remains of the Day' which is set in a large English country house. The story is told through from the first person point of view. The narrator is a butler, called Stevens, who looks back on his life of service to an English Lord, and hints at regret for hav-

ing failed to express feelings he had for the former housekeeper, Miss Kenton.

The setting of the novel is a very English one, and is not dissimilar to the world of 'Downton Abbey' which has become such a popular TV series recently around the world. There are many great themes in the book including duty, social constraints, loyalty, unfulfilled love, and the meaning of human warmth. The writing style of Ishiguro is immaculate and the book is rightly regarded as one of the best post-war novels written in England.

I recommend this book for an understanding of English class structure and traditional English manners that can seem very restrictive at times. The character of Stevens is very interesting despite his obvious flaws. It is a story I enjoyed as a young man, and now can relate to even more as I grow older!

ことばと文化学科 アンドリュー・ダニエルズ



『障害児3兄弟と父さんと母さんの幸せな20年』

佐々木志穂美
KADOKAWA

「健康とは何か」「Well beingな状態って何？」職業から考えることの多いテーマである。本書は障害をもつ3兄弟と両親の日々の暮らしぶりが、エッセイストである母親の目を通して描かれている作品である。3人の子育て中の様々なエピソードが具体的にユーモアをもって描かれており、その中に両親の愛情深いまなざしや子育ての楽しみを強く感じる事ができた。また同時に様々な葛藤を抱えながらの生活であろうことも伺え、笑ったり、泣いたりしながらあつという間に読めた。

母親のことばをかりて子供たちの紹介をすると「長男は洋平君（重度心身障害）、次男はダイ君（高機能自閉症）、三男は航君（知的な遅れを伴う自閉症）。長男は長男気質でとことん優しい。

動けない、しゃべれない。一緒にいると陽だまりにいる気持ちになる。ダイ君は愛情の受け方が不器用。航君は天真爛漫。

それぞれに個性的な子供たちである。歩けようが歩けまいがかわいさに差はない」

「健康とは、身体的にも精神的にも社会的にもよく調和のとれた状態にあることをいう。単に疾病がないとか病弱でないということではない」とWHOで定義されている。この定義にあてはまる健康な人がどれくらい存在するのだろうか？本書冒頭の「父さんから洋平への手紙」の一節に「世界中の人が盲人ならば目の見える人は奇異だろうなって。世の中、能力の多い人が“普通の人”の地位を得るのではなく、ようするに多数決なんだってこと。少数派が悪いわけじゃない」と記されていた。普通って何だろう、幸せって何だろう？様々な視点から考えられるような大人になりたい。多くの示唆を与えてくれる書物である。ぜひお勧めしたい。

看護学科 花井節子





『パリでメシを食う。』

川内有緒著
幻冬舎

私たちはいつも何かの目標に向かっていつも走っています。一つの目標がクリアできると、また目の前に次のゴールに続く道が現れます。大学に合格したら、日々の課題、資格の勉強、そして就職活動。いつも何かを追われている感じです。それは時間や「こうあるべき」というプレッシャーからくるものかもしれません。この本を通して、私は10人の「パリでメシを食う」人たちに出会いました。その人たちは社会人として「こうあるべき」ということよりも、自分の中の「どう

ありたいか」という思いに素直です。30歳間近でフランスにわたり、三ツ星レストランで修業を積んだ女性や、フランスのサーカスでヨーヨーを披露する男性、また偶然立ち寄った不法占拠ビルでアーティストになった女性など、さまざまな背景を持った人たちが、自分自身に向き合っ、自分のペースでゴールに向かっていきます。もちろん「こうあるべき」ということも社会人として大事なことです。しかし、何かに追われる日々で疲れた時、自分がどうありたいかを考えてその心の声に素直に従ってみるのもいいのではないかと思います。この本はそんな新しい視点を与えてくれる本です。皆さんもぜひ読んでみてください。

ことばと文化学科4年 坂元 秀吏



『貧困について とことん考えてみた』

湯浅 誠、
茂木健一郎著
NHK出版

図書館所在
1F和書 368.2 YU

大学の講義の中で、子供食堂についてお話があった。子供食堂とは何だろうと疑問に思うだろう。食べ物を通して人と人とのコミュニティを作る場のことである。なぜ、このような子供食堂をしているのかというと、子供食堂をつくる一つの背景には「貧困」がある。私は、自分の身の回りには貧困で悩んでいる人なんていないと思っていた。私は、いつも一緒にいてくれる人の中だけで育ってきた。しかし、大学生活を送っていく上で、平凡で変わらない日常を当たり前で生活している自分自身に疑問を抱いた。いつも一緒にいる友人や家族の中だけで生活していると、自分自身の見え方が固定化していると思った。知らないうちに、自分とは異なる立場にある貧困家庭の人を偏見しているのではないかと思った。次第に、自分とは関係のない「貧困」を見なかったことにするようになった。だから「貧困」を私の身近に感じたいと思い、この本の著者の湯浅誠さんの講演会に参加した。湯浅誠さんの考えをもっと知りたいたいと思いこの本を手にとった。

この本を読んで、私は一人では生きていないのだ

と感じる。私の人生を省みるきっかけになった。私は、自力で大学に入ったわけではない。しかし、日々の生活で忙しさにとらわれつい誰かの支えがあることを忘れていた。私を形成しているものは、全てこれまでの人のつながりがあって自分がある。この本は、人とのつながりがいかに大切なのかを教えてくれる。また、生活している上で「貧困」で困った経験はない。きっと貧困家庭にある人を見て「自己責任だ」といって見て見ぬふりをすると思う。しかし「自己責任だ」という冷たい言葉が、私と貧困家庭にある人との間に溝を作るのだということに気付いた。「自己責任」という言葉は、貧困家庭にある人を自己嫌悪に陥らせるだろう。貧困問題を抱えているその人自身に問題があるのだろうか？その人が誰かとつながることのできる居場所はないのか？疑問に思った私は、実際に人とのつながりを提供する子供食堂のボランティア活動に参加した。

もし、明日大きな災害に巻き込まれて家を失ってしまったらと思うと、私と「貧困」は無縁ではないように感じる。家を失った私は、どうやって生活していけばいいのだろうか・・・誰も私のことをかまってくれないという状況になった時、「自己責任だ」と世間から言われるのは、私は社会から必要とされていないのだと感じる。この本から本当の貧困とは、身近における人との繋がりやの薄さにあることを学んだ。貧困になってしまった原因は、貧困家庭にある人自身に責任があるわけではないということも学んだ。

看護学科1年 黒木 文華



『でんでんむしのかなしみ』

新美南吉作、かみやしん絵

図書館所在
1Fえほん
726.6 KA

私が紹介する『でんでんむしのかなしみ』は新美南吉という日本を代表する絵本作家によって書かれたものです。物語の主人公であるでんでんむしは「かなしみ」が自分の中にあることに気づきます。その悲しみを堪え切れなくなったでんでんむしは友人達に打ち明けます。すると友人のでんでんむし達も「かなしみ」を告白します。そのとき初めて主人公は友人達も各々の「かなしみ」を自分と同様に殻の中にそっとしまっていることに気づきます。そして物語の終盤、主人公は悲嘆するのをやめて「かなしみ」も丸ごと受け止めて生きていこうと決心します。

短編ですが、一言ひとことに重みがあり、繰り返しくりかえし読むにつれて徐々に心の奥に染み入るような味わい深いものがあります。自分の殻という閉ざされた空間にうずくまっている「かなしみ」に真っ向から対峙して退治しようとするほど、その存在は殻の中で増幅しているように思います。自分だけに焦点を当てているため外から差し込む光をも遮っているのかもしれませんが、また外見の殻の模様の鮮やかさに目が留まり、その人の内面を深く見入ることを怠っているようにも感じます。読み手によって感じ方はさまざまですが、本作品をあらゆる角度から捉えようとすると多くの教訓が秘められているのではないのでしょうか。

私は特に目に見えない他者の内なる思いを心で感じ取り、自分自身の「かなしみ」を肯定して前に歩みだす主人公の姿に魅力を感じます。本作品は読み直す度に生きる糧になるような大切なことを教えてくれる一冊となるでしょう。皆さん、是非とも一度手に取って読んでみてください。

こども学科3年 岩木 円花



『陸王』

池井戸潤著
集英社

図書館所在
1F和書 913.6 I

この本は、どんな事が起きても決して諦めない気持ち、チャレンジ精神の大切さ、そして人と人がつなぐ大きな絆を学べる本である。足袋作り100年の老舗こはぜ屋が会社の存続に賭けてランニングシューズの開発に挑むという話である。資金難、素材探し、開発力不足などの多くの苦難を乗り越えながら自分たちの強みを武器に、世界的に有名なスポーツブランドと熱烈な競争し、その過程で得た人脈、仲間との強い結びつきをバネに一世代の勝負に打って出るという物語である。こはぜ屋の四代目社長の宮沢がランニングシューズ開発を始めたきっかけは、会社の存続が危ぶまれる危機感で始めた新規事業を始めようとすることや、

豊橋国際マラソンを観戦中に実業団ランナー茂木選手が宮沢の目の前で怪我をしたがそれでも諦めず前に進もうとする茂木選手に感銘を受け、怪我をしにくく裸足感覚で走れるランニングシューズを作りたいという気持ちであった。新規事業は、一つの苦難を乗り越えるごとに一人一人が成功したいという想いが強くなっていくところに印象を受けた。陸王を読んで、それぞれの場面で出会いがありつながりが生まれ、画期的な成果となるこれがものづくりの醍醐味だろう。宮沢の語った次の一言が印象的である。「ビジネスというのは、ひとりでやるものじゃないんだ。理解してくれる人がいて、技術があつて情熱がある。ひとつの製品を作ること自体がチームでマラソンを走るようなものなんだ。」この一言から、陸王を作ること誇りをもち困難に立ち向かい乗り越え、前を向いて成長をし続けるこはぜ屋仲間たちと、怪我からいち早く復帰をし、レースで成績を残さなければならぬという自分との闘いをしている茂木選手とが重なっていると考える。

そして、チャレンジすることよりも、その過程で得た困難に立ち向かう勇気を持つこと、人と人との出会いが人生において大切だと思った。

健康栄養学科2年 南 有梨沙

User's Voice

私の理想の図書館の条件は2つある。1つは、自然を感じる図書館である。それは、読書をするうえで、環境を大切にしたいと考えるからである。陽の光の強さや雨の降り方、風の音など、目に入る景色や聞こえてくる音の全てが本の世界を作り出していると思う。もう1つは、人との触れ合いのある図書館である。図書館は、本だけが置いてある場所ではない。そこには職員の方々がいらっしゃる。図書館を利用する中で分からないことがあった時、本の専門家である職員の方々から多くのことに助言を仰ぎたいと思う。

4月に初めて鹿児島純心女子大学の図書館を訪れた時、まさに私が求めていた理想の図書館そのものだと感じた。晴れの日には、大きな窓から入る陽の光が暖かく、雨の日には雨音が心地良い。特に雨の日の



図書館はお勧めである。先日、太宰治の「人間失格」を読んだ。しとしとと降る雨音が、物語の鬱々とした雰囲気ぴったりと合い、物語の世界に強く引き込まれた。主人公の人生を辿りながら、同じく自分の人生を振り返り、自分を見つめなおした。いつも図書館に行くと、物語の世界の中で自分と向き合った時間を思い出す。それは、図書館という場所を介して本と自分が繋がるという素敵な感覚である。

そういうわけで、図書館を訪れることは私の生活の中の楽しみの一つになっている。そして、そんな私を図書館で待っていてくれるのが、職員の方々である。鹿児島純心女子大学の図書館の職員の方々は優しい。本の探し方などを教えてもらったことは一度や二度ではない。どんなに小さなことでも丁寧に対応してくれる。そのような人との触れ合いが、図書館を訪れる私の心を温かくしてくれる。

私にとって図書館は心を満たしてくれる理想の場所である。あなたにとって図書館はどんな場所ですか。

49年後のconfession

第四小学校卒業生 岩田真一

H先生。すいません。僕はズルをしていました。本を全部読まずに感想文を書いていました。本の「あとがき」を参考にして感想文を作りました。偉人伝は「カモ」でした。書いてあることはワンパターンです。偉人はみな、なにかすごいことをして、なにかエピソードがあって、そして惜しまれて死んでいきました。子供向けの偉人伝は何十冊もあり、ページ数が稼げました。SFもまた、「カモ」でした。難しい心理描写がなく、深く考えを巡らす必要がありませんでした。荒唐無稽なことが書いてあるだけです。市営図書館にはジュール・ベルヌの本が山のようにありました。

市営図書館の司書の方々、「いつもいっぱい借りてくね。」と褒めてくださったのにすいません。本当に読んだのは10冊に1冊だけでした。

Kさん。あなたもきつとズルをしていたと思います。最初は正直に読んでいたと思います。



でも、僕がどんどん頁数を稼ぐので焦ったのではないのでしょうか。僕はクラスで1番だったので転校生に負けるわけには行きませんでした、そしてズルをしました。小学4年生が1学期で1万頁も読めるはずがありません。僕は自分のしているズルが怖くなって1番になるのは止めました。読書マラソンの1番はわざとあなたに譲りました。ズルをして1番を取ったなら一生良心の呵責に苛まれたでしょう。2番でもこんなにトラウマになっているのですから。

I君。あなたは立派でした。ご両親が先生でした。正直に本を読んで真面目に感想文を書きました。それで、メガネをかける羽目になってしまいました。

H先生。読書マラソンは次の学期にはしませんでした。安心しました。I君が近視になったのが中止の原因と言われましたが、僕らにこれ以上不正をさせないためだと思いました。生徒に本を読ませるために読書量を競わせる。古い教育手法ですね。

仕事のための知識を得るためにたくさんの本を読まなければなりません。時々、心が欲して本を読みます。そして、ごくたまに感動します。

forum

古本募金 スタートしました！

去る10月2日に古本募金がスタートしました。『古本募金』とは、読み終えた本やDVD等を、リユースを目的に換金して、その換金額が大学に寄付される仕組みです。集まった寄付金は教育の充実のために役立てられます。

申込受付から集荷、査定・寄付金額の報告および送金は、『古本募金きしゃぽん』（運営：嗟峨野株式会社）に委託しています。



スタートから5ヶ月が過ぎました。皆様のご協力のおかげで寄付金が集まりましたのでご報告いたします。

2017年度 寄付金額合計	60,986円
(内訳)	
大学の除籍本 回収ボックス	46,967円
卒業生・保護者	14,019円

ご協力ありがとうございました。
引き続きご協力をお願いいたします。
古本は学内の回収ボックス、または
「鹿児島純心女子大学 古本募金」へ！
<http://kishapon.com/k-junshin/>



純心 * アート ギャラリー

図書館棟2階の回廊のアートギャラリーの絵画をじっくり鑑賞されたことがありますか。興味を持っていただこうと企画し、図書館報で1作品ずつ紹介していきます。シリーズ第2作品目は、「大公の聖母」です。



「大公の聖母」

ラファエロ・サンツィオ
Raffaello Sanzio (1483-1520)

ピッティ美術館蔵(フィレンツェ) 
1504年頃 油彩 板



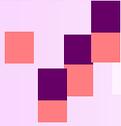
「大公の聖母」を描いたラファエロは“聖母の画家”と呼ばれています。ラファエロのほかにも聖母を描き続けた画家は多くいますが、聖母の画家と呼ばれるのはラファエロただ1人です。ラファエロが描く聖母(子)は慈愛に満ち優しくあたたかいので“聖母の画家”と呼ばれるのだそうです。

この絵が「大公の聖母」呼ばれるようになったのは、トスカーナ大公フェルナンド3世が18世紀末に入手したのち、この絵をとっても大切されたことによると言われています。



ラファエロの作品を知るために…

- ・『聖母マリアの美術』、諸川春樹、利倉隆著 美術出版社、1998年
- ・『ラファエロ』、クリストフ・テーネス著 TASCHEN、2006年
- ・『ルネサンス美術館』、石鍋真澄監修 小学館、2008年
- ・『もっと知りたいラファエロ：生涯と作品』池上英洋著、東京美術、2009年
- ・『ラファエロ：作品と時代を読む』越川倫明ほか著、河出書房新社、2017年 ほか



お知らせ



●Facebookを利用しています

緊急のお知らせはもちろん、ちょっとしたお知らせもFacebookで行っています。時々、チェックしてみてください。



ブックマークご利用下さい



本の帯や、その他の紙切れ等を利用して、ブックマークを作りました。

本に挟むタイプとコーナーにつけるタイプの2種類あります。用途に合わせてお使い下さい。カウンターに置いてありますのでご自由にお持ち帰り下さい。

Library Stamp Rallyいつでも開催中！

始めたい時に始められるスタンプラリーを開催しています。貸出冊数が15冊に達したら1個、文献検索ガイダンスを受講、ブックレビューを書く、クイズに答える、ボランティアをする等でポイントが集められます。スタンプカードにビンゴゲームのように縦・横・斜めにスタンプを5個揃えられたら、図書館オリジナルバッグが1個プレゼントされます。1枚のカードでバッグ5個までもらえるチャンスがあります。カードは4年間有効ですが、貸出冊数は年度単位で失効しますので、年度が変わる前にスタンプをもらって下さい。もらったポイントは4年間有効です。皆さんの参加をお待ちしています。



卒業後も利用できます

在学時より利用制限はありますが、貸出も可能です。ご利用下さい。（*貸出冊数5冊、貸出期間2週間）
大学に来られたら、まず大学の受付で入館の手続きを行って下さい。その後、図書館へお越しください。皆様のご利用をお待ちしています。

編集後記

季節を彩る花壇を過ぎゆくと、噴水を前にした壮観な建物が図書館です。そうして奥に進めば、扉が開き、螺旋階段まで広がるエントランスは静かに私たちを迎えてくれます。やわらかな陽光が書架を包み、多くの知と徳そして心のよりどころを作ってくれています。

さて、図書館報「VERITAS vos liberabit」第7号は巻頭の言葉を副学長先生からいただき、複数の書籍を読む中から生きるヒントがメモであることを知りました。

また、「Book Review」に寄稿され、紹介して頂いた大学院、各学科の先生方、学生の皆さまにお礼を申し上げます。読書したことによる諸々の感想は、皆さん相違があると思いますが、洋書・和書を問わず、投げかけられているものは何かを改めて気づかされました。

今年度は「選書ツアー」や「古本募金」のスタートが切られ、皆さまのご支援を頂きましたことに感謝いたします。又、図書館の運営・書籍の管理をされている先生方のお力と共に。

あらゆる本を媒体としてその書面を自分の視野に入れ、生き方の指針を探るという機会を持つことができる場所は図書館であると思います。これからも沢山のご利用をお待ちしています。(FT)



鹿児島純心女子大学附属図書館報

VERITAS vos liberabit

No.7

編集・発行：図書館運営委員会

発行日：2018年3月14日

〒895-0011

鹿児島県薩摩川内市天辰町2365番地

TEL：0996-23-5311 / FAX：0996-23-5030

E-mail: veritas@jundai.k-junshin.ac.jp